

懇談会開催日：令和6年9月9日(月)

地区：豊浜東

要望・意見内容	市長回答
①東豊浜第2排水機場の整備について、自動運転化の計画はないのか。 ②φ900ミリの給排水ポンプの更新計画はどうなっているのか。また、屋外燃料タンク漏れがあり、300リットルの室内タンクの運転しかできないため、長時間に及んだ場合は燃料切れの不安がある。	①現在、市内にある多くの排水機場が老朽化し、排水能力の低下が見込まれることから、市内の34機場において、その機能回復と老朽化対策(長寿命化)を優先し、順次整備を進めている。この老朽化対策に一定の目途がついた時点で、自動運転化の計画を検討していきたいと考えている。 ②φ900ミリの排水ポンプ(東豊浜排水機場)については、国の補助事業を活用し県営工事として老朽化対策を実施する予定であり、現在、補助採択を得るための事業計画書を作成しており、令和8年度に設計、令和9年度から長寿命化(更新)工事に着手できるように三重県と協議を進めている状況である。また、燃料タンクについては、来年度、出水期までに、新しい大きなポンプから接続できるような工事を実施する予定である。 排水機場の自動運転化については、順次はやっていけると考えている。しかし、やっていくためには、国の補助金をどれだけ取れるかが重要になってくるため、予算の確保に向けて努めてまいりたい。なお、国への要望時には、地元の声も必ず伝えている。
①豊浜東小学校の統合について、小学校統廃合の計画の進捗はどうなっているのか。 ②現在、2,3年、4,5年が複式学級であり、子供の教育の機会が普通学級に比べて、半減しないのか。 ③児童の通学はどうなるのか。	①豊浜東小学校・豊浜西小学校・北浜小学校・東大淀小学校の児童数の推移等を考慮し、統合時期について検討中である。 統廃合については、子どもたちの数が少なく学校における人間関係が6年間同じであることが心配であり、スポーツの選択肢も少なくなってきたり、非常に危惧している。また、統合するために、建設場所や予算の確保の課題など統合するためのメリット・デメリットが難しく、正直、悩ましい状況であるが、子供たちの学習環境については、教育委員会とより良い方向で一緒に進めさせてもらいたい。 ②通常学級と同じように、各学年で学習指導要領に定められた学習内容を確実に学んでいけるよう、教育課程の編成を行い、計画的に学習を進めている。 ③統合校から半径2キロを超える区域に居住する児童に対しては公共交通機関やスクールバス等の交通手段の確保を行っていく。
磯の堤防道路(県道511号線)の拡幅について、7メートル道路への拡幅の計画はどうなっているのか。	本道路については、現状において、路面のひび割れもある。また、当地区の生活の主要道路であるとともに、高校生の通学路やバス路線でもある。本道路は県道であるため、三重県に確認したところ、「今後の対応については、道路の利用状況等を勘案しながら検討していきたい」ということであり、中々すぐという回答ではなかったが、市として、地域の声を粘り強く、切実な要望として三重県へ申し入れしていきたい。

要望・意見内容	市長回答
宮川は、干潮になると、ほとんど干上がっており、非常に浅い状況である。線状降水帯のような考えられない雨が降るため、堤防は補強されたが、やはり水は超えてくるのではないかな不安がある。川床の浚渫について、国に働き掛けてもらいたい。	国としては、平成16年の横輪川の堤防が決壊した際、宮川へ流れる雨の量を増やすように整備したので、基本的には、この前の史上最多の雨の量でも大丈夫の状況である。ただ、堆積土砂が増えて沿岸部の自然環境が漁業関係に影響があるかについては、分からないところがあるため、勉強していきたい。
スマートシティ構想について、我々の世代が終わり次世代に移行するまでの間は、デジタルデバイド(情報格差)が存在するため、スクラップアンドビルドではなく、ビルドアンドスクラップの考え方で進めてもらいたい。	スマホが苦手な方々には、教室を設けたり、講師の派遣などを行いたい。現在では、地元高校生と一緒にスマホを勉強することが人気であるため、地域版のようなものを考えてまいりたい。
南海トラフ地震臨時情報が発表された際に、市から自治会に対し、「防潮門を閉めてもらえないか」との依頼があったが、1週間の間、ずっと閉めることから、漁業者など利用する方達への了解も必要と考える。	自治会や民生委員、消防団の方々にお願いする案件については、ほぼルール化したものに基づきお願いしている。今回は、2019年以来、初めてのことであったので、確認して、齟齬のないようにしてまいりたい。
小学校の複式学級の状況を見らる中で、年齢の差で考え方も違うし、いじめもあると思う。保護者も心配していると思うので、いじめがないよう配慮してもらいたい。	複式学級の状況について一度、現場を確認させてもらいたい。
75歳以上の後期高齢者について、特に独居生活の方は、免許も既に返上し、どこにも行けない状況であるため、例えば地域にも空き家が多い中、その空き家のひとつを市が管理し、住民が気楽に利用できるような場を作れないのか。	居場所作りは大事なテーマである。市が直接場所を開設し運営していくと、経費もかかるため、まちづくり協議会の事業予算や社会福祉協議会の事業など、支援できるものは支援していきたい。主体的に市の職員が入って行っていくことは、難しいため、地元の自治会や民生委員と相談させてもらえるなら、ありがたい。また、電動アシスト自転車やバス券・タクシー券もあるので、ぜひ利用してもらいたい。
資料の「令和6年度施政方針と当初予算」に記載された「笑子・幸齢化のまちづくり」において、伊勢市は高齢者に対して、どのような取り組みをするのかを詳細に記すべきではないか。	一番は地域医療の関係としては、伊勢市全体で過不足のないような医療資源は提供させてもらっている。高齢者の移動支援は大きなテーマであると考えており、移動ができる地域とできない地域とでは、大きく差が生じることはないよう、おかげバスなど交通手段の充実を一歩ずつ前進させている。バスの利用を増やす方法として、必要に迫られてバスを利用するよりも、楽しみを作って利用する方が利用者は多くなる。また、高齢者の移動支援が構築できると、マイカーに頼らず生活できるまちとして若者も増えていくため、きちんと充実できるかは、地域の生き残りの要の1つになってくると考えている。